01 オリイメック株式会社

時代ニーズに適合したプレス自動機を開発 海外戦略を促進させる

内田百馬 社長

オリイメック株式会社

〒259-1198
神奈川県伊勢原市鈴川6
TEL.0463-93-0811
http://www.oriimec.co.jp/

主力のレベラーフィーダは 高速化、省エネを中心にさらに機能アップ

オリイメックの創業は1962(昭和37)年。以来一貫して、プレス自動機のトップメーカーの位置を堅持しながら時代ニーズと顧客ニーズに適合した機種開発に注力、その結果、現在ではプレス自動化に関しては幅広い需要に対応するラインナップを実現させている。

主力のレベラーフィーダは小型から全自動まであらゆる加工プロセスに対応するシリーズ機を完成させ、コイルラインシステムとしても非鉄薄板から厚板鋼板までコイル幅に合わせてラインナップ、コイル材自動供給から多段設定までフルオート化を図っている。

加えて常に進化するプレス技術に対応した技術開発にも怠りはない。内田百馬社長は「レベリングの品質・精度向上」「高速化」「省エネ」「省スペース化」が開発にあたっての4本の柱であり、重点項目であることを強調する。

その成果として今回のMF-Tokyo2009に出展するのが、高張力鋼板をはじめとして多様化する材料に対応するNCレベラーフィーダLCC PM2シリーズのLCC06PUである(写真1)。レベラーフィーダの次世代マシンと位置づけている。

LCC06PUは、従来機LCC06PM2の高速仕様をベースにワークロールのリリース機構をエアシリンダ方式からサーボモータによるリリース方式を採用している。ワークロールをサーボ化することで効果的かつ合理的に機械を動かすことができ、生産性を1.6倍にアップ、省エネ機能も高め日本鍛圧機械工業会のMFエコマシン認証制度で認証された。

写真1　高張力鋼板をはじめ多様な材料に対応する NCレベラーフィーダ「LCC06PU」

ロボットシステム、トランスファ装置など 多面的に展開

レベラーフィーダとともにオリイメックの大きな柱となってきたのがロボットシステムである。なかでもRYロボットは日本初のプレス用ロボットとして高い納入実績を有し、2軸サーボRYNロボット「RYN120」(写真2)はMFエコマシン認証制度においてプレス自動機として国内初の認証を受けている。

MF-Tokyo2009に出展する高速2次元トランスファ「RX009」(写真3)も新機軸だ。片持ち2次元動作を採用することで調整の簡便性とコスト低減を実現。送り動作はリニアサーボ方式、上下方向はサーボモータ+カム方式とすることで確実かつ高速動作を可能とし、下型ダイスペースまたはボルスタに載せることができるコンパクトサイズを実現している。

写真2　高い納入実績を有する 2軸サーボ「RYNロボット」

最大送り量90mm、上下量6mm、最大可搬質量1.5kg、ハンド数MAX10、サイクルタイム180送り相当時間70spm(240°送り量82.5mm、送り相当時間90spm)の仕様を持つ。

写真3　高速2次元トランスファユニット「RX009」

精密ばね成形機もMF-Tokyoに出展

オリイメックはプレス自動機と併せて、「精密ばね成形機」「物流搬送システム」「防振台」等の製品を保持し、事業展開を図る。物流搬送システムは、通い箱にポリ袋を1時間で最大2400個を自動的に袋掛けする機種を新たに開発し、より高速化を図る。5000台超の納入実績を有する精密ばね成形機も、ワイヤ径4mmに対応する新機種の販売を予定しており、技術開発を促進させている。MF-Tokyo2009にも16軸のサーボモータにより多様な動きを実現するVM-26(写真4)を出展する。

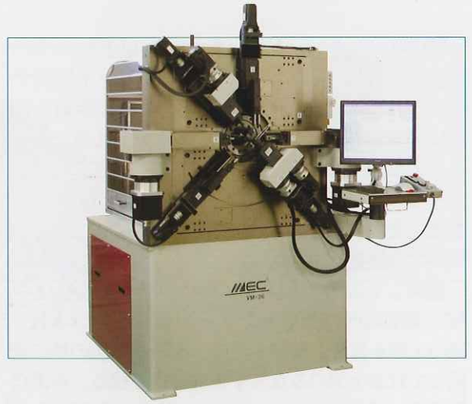

写真4　16軸のサーボモータにより多様な動きを実現する精密ばね成形機「VM-26」

因みに、2008(平成20)年12月期の製品別の売上げ比率を見ると、コイル加工ラインシステム57%、ロボットラインシステム10%、ばね成形機10%、物流自動化装置1%、防振台1%、その他21%の割合である。

充実した国内サービス体制 海外展開も活発

オリイメックは従来よりサービス体制の充実にも力を入れる。本社以外に、東日本営業部、中部営業部、西日本営業部を中核としてその下にさらに13の営業所を展開する。営業マンは技術サービス・メンテナンス対応を可能とするセールスエンジニアとしての機能を有し、機動力は高い。

海外展開も活発だ。米国、シンガポール、タイ、中国（香港、上海）に販売拠点を有し、中国広州に製造拠点を持つ。現在、中国での受注活動が活発化しており、インドからの引き合いも増加傾向にある。BRICsを視野にした販売展開にも力が入る。2008(平成20)年12月期の輸出実績を見ると、中国43%、ASEAN29%、ASEAN以外アジア9%、北米11%、欧州5%、中南米3%の割合だ。